



# 平成30年度全国学力・学習状況調査

## 調査結果・指導改善のポイント【概要版】

平成30年10月 岩見沢市教育委員会

### 学力調査の結果より

#### 1 岩見沢市・北海道・全国の平均正答率 (%)

児童生徒	項目	国語A	国語B	算・数A	算・数B	理科
小学校 6年生	岩見沢市	73	55	66	52	60
	北海道（公立）	70	53	62	49	59
	全国（公立）	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
中学校 3年生	岩見沢市	77	63	66	47	68
	北海道（公立）	77	61	65	46	67
	全国（公立）	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

#### 2 全国の平均正答率を100とした場合の岩見沢市・北海道の数値 (%)

児童生徒	項目	国語A	国語B	算・数A	算・数B	理科
小学校 6年生	岩見沢市	103	101	103	102	100
	北海道（公立）	99	97	98	95	98
	全国（公立）	100	100	100	100	100
中学校 3年生	岩見沢市	101	103	100	100	103
	北海道（公立）	101	100	98	98	101
	全国（公立）	100	100	100	100	100

### 質問紙調査の結果に基づく指導改善のポイント

#### 1 徹底した「日常授業の改善」の取組

各学校において「日常授業の改善」を組織的な学校改善の中核として位置付け、徹底して取り組んでいくことが重要である。

- (1) 「教えて考えさせる」授業の学校全体での展開
  - ①教えることは教え、思考とアウトプットの活動（書く、説明する、話し合う）が明確な授業
  - ②「課題(ねらい)」とそれに正対した「まとめ」が明確な授業
  - ③「振り返り」を書くことによる自らの思考過程を客観視できる授業
- (2) 「ピア・サポート」による「傾聴・受容・共感」の学校風土の醸成（児童生徒はもとより教師の教育観、指導観の転換）
- (3) 日常授業の中で「ピア・サポート」を実践することへの意識転換
- (4) 学習規律、教室環境などの統一（ユニバーサルデザイン）

## 2 学力向上の取組の一層の推進

各学校において、検証改善サイクルによる学力向上の組織的な取組に継続して取り組んでいくことが重要である。

- (1) 教育課程の工夫・改善
- (2) 学力の数値目標の設定と評価
- (3) 練習問題（ドリル）の徹底による習熟の深化
- (4) 朝・放課後学習や長期休業中の学習等による補充・深化・発展的な学習機会の提供
- (5) 宿題・家庭学習の充実による学習習慣の定着

## 3 小中連携による学力向上の取組の確実な実行

小・中学校の教職員が、義務教育9年間を見通して子どもたちに学力を身に付けさせるために連携強化を図ることが重要である。

- (1) 標準学力検査、全国学力・学習状況調査の結果の交流
- (2) 小学校卒業時と中学校入学後の成績の比較検討
- (3) 小・中学校で統一した学力向上の取組の実施

## 4 子どもの自尊感情・自己有用感・達成感・規範意識等を育てる取組の推進

学校生活において自己有用感や規範意識を高める取組を推進し、子どもたちの「学びに向かう力」を高めることが重要である。

- (1) 規範意識が高い児童生徒ほど自尊感情が高いという研究結果を踏まえた、教職員の共通理解に基づく学校のきまりを守る指導の継続
- (2) 授業や行事等の教育活動で、児童生徒に自信をもたせたり、達成感を味わわせたり、自分のよさに気付かせたりする活動の意図的な推進
- (3) 子どもが自己を見つめ、生き方についての考えを深める「特別の教科道徳」の授業づくりの深化・充実
- (4) 生徒指導の機能を生かした「わかる」授業づくりの継続
- (5) 「hyper-QU よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート」を活用した実態把握、ピア・サポートによる支持的風土の醸成

## 5 子どもたちの基本的な生活習慣の定着

学校、家庭、地域が一体となり、子どもたちの基本的な生活習慣を定着させることは、「学力向上」において欠かすことができないことから、引き続き「家庭での5つの約束」の徹底を図る。

### 〈家庭での5つの約束〉

- ア 早寝、早起き、朝ごはんの習慣を身につけよう
- イ 次の日の学習準備をしよう
- ウ 家庭学習を毎日しよう
  - ・帰宅後の学習習慣を身に付ける
  - ・宿題、予習、復習をする
- エ 読書に親しもう
- オ 家族との会話を大切にしよう

## 6 「家庭力」「地域力」の更なる向上

平日における学習時間が短い子ども、夜遅くまで起きている子ども、ゲームをする時間やスマートフォンの使用時間が長い子どもの増加、家族と話す時間の減少等、生活習慣に関する課題への対策が必要である。

- (1) 家庭における、子どもが社会性や自律性を身に付け、自らの生活リズムを整えようとする態度の育成
- (2) 地域子ども会、地域行事、関係機関、PTA 等との連携・協働により、子どもたちの地域や社会への関心を高める地域ぐるみの子育て推進体制の構築と推進